

茎・葉ともに強い悪臭があり赤紫色を帯びる。この悪臭のため人に嫌われているが本人はそんなことは気にせず日陰に繁茂しています。

初夏、茎の上部に長さ一センチ〜三センチの穂状花序を出し、淡黄色の小さな花をつけます。

全草を乾燥し、煎じたものは駆虫、利尿役に用い、高血圧、便秘などいろいろの病気に効き、更に生葉の汁は虫刺されや疥癬（かいせん）に効くという。

新百合山手の公園のいたるところで生息していますが、あまりに強い悪臭のため、嫌われていますがその効用を理解し生活の中で利用していきたいものです。

私が小学生のころ、河原で水遊びをしていたとき、誤って石を小指の上に落としてしまい3センチほど裂傷を負いましたが、その時とつきにこのドクダミ草を細かく砕き、その汁を傷の中に擦り込ませ殺菌したおかげで化膿もせず治った記憶があります。



「どくだみのこまかきが庭に生えそめぬ人に嫌はるる草  
なりながら」(斉藤茂吉)

なりながら」(斉藤茂吉)

